

## 特集

# 栄養学科の教育・研究分野の紹介

栄養学科長 吉池 信男

2008年4月、青森県立保健大学の設立から9年目の年に、設立時の3学科（看護学科、理学療法学科、社会福祉学科）に加えて、栄養学科が新設されました。それから約2年が経過しようとする今、ヒューマンケアの担い手である管理栄養士を養成する教育機関として、栄養学の卒前・卒後の教育及び関連研究を行う機関として、また地域の健康づくりや産業振興に貢献する青森県の法人組織として、現在と未来を自ら見つめ直すとともに、学内外の関係の皆様には私たちの役割と取り組みをご理解いただくために、本特集が企画されました。

他の専門職などにおかれましては、「管理栄養士」とは何か、また「栄養士」とは何が違うのかをご存じでない方も多いのではないのでしょうか。そのような「そもそも話」の歴史的経緯からはじまり、管理栄養士養成の大学における教育のあり方について解説をしました。ヒューマンケアの担い手の一翼を担う管理栄養士について、その制度的背景やどのような教育がなされているのかを他職種の方々に知っていただくことは、チーム医療や保健の現場において、極めて大事なことと思われまます。

また、栄養学科の新設以前から、食品学を中心に、栄養・食品などに関連する研究が大学院の「生活健康科学分野」において進められてきました。現在は、他大学出身、あるいは管理栄養士の資格を有する社会人の大学院生を中心として、研究が進められています。2年後に栄養学科から第一期生が卒業し、研究者や高度専門職を目指して大学院へ進学するようになれば、本学におけるこの分野の研究は飛躍的に発展することになるでしょう。本特集では、これまで行われてきた研究について、地域の食資源という観点からの食品を対象としたアプローチと、予防栄養学という観点からの動物モデルを用いたアプローチについて、紹介しております。今後、このような実験室で行われる研究に加え、管理栄養士などが施設や地域で行う実践に関わる研究が展開し、青森、日本、そして世界に向けて、人々の健康や幸せにつながる研究成果を発信することを夢見て、教員や大学院学生は日夜研究に励んでおります。

青森県、そして北東北唯一の管理栄養士養成の大学であり、また東日本ではまだ数少ない栄養学の大学院を擁する国公立の教育・研究機関として、本学の栄養学科の

役割はきわめて重要です。青森県のみならず、北東北における中心的施設として、優秀な人材の輩出や社会に有用な研究成果の発信ということを含め、地域への貢献が益々求められています。そのような視点から、本シリーズの最後は、本学の地域貢献担当理事でもある藤田教授によって、栄養学研究からの地域貢献の展望で締めくくられています。

このように、教育、研究、そして地域貢献と、新たな可能性と大きなエネルギーを内に秘めている「栄養学科」に対して、本特集を通じて皆様方のさらなるご理解と、そしてご支援とご指導を賜ります契機となれば幸いです。